

鳥海山麓 MTB サイクリングより、鳥海山に魅せられて

司会

本日はお集まり頂きまして誠にありがとうございます。始めに由利地域振興局 総務企画部 佐藤よりご挨拶申し上げます。

佐藤

由利地域振興局 総務企画部の佐藤と申します、どうぞ宜しくお願いします。本日は環鳥海秋田山形県際間連携フォーラム「鳥海山麓 MTB サイクリングより、鳥海山に魅せられて」を企画いたしまして、この悪天候の中多くの皆様から御参加頂きまして誠にありがとうございます。またこのフォーラムを開催するにあたりまして多大な御協力を頂きました、町長様を始め、観光協会の皆様には厚く御礼申し上げます。また大変多忙な中、基調講演をお引き受けくださいました竹谷様、本間様、富樫様には御礼申し上げますと共に、どうぞ宜しくお願い致します。今回のフォーラムは国土交通省の支援を受けて開催



れております。明峰鳥海山を中心に古くから経済・文化・教育等の交流がさかんに行われている秋田・山形県の由利、雄勝、庄内、最上、4 つが県と言う枠を超えたより広域的な住民活動を勤める事によって、環鳥海地域の魅力と特性を発信する事を目的としております。これまでの活動を簡単にご紹介致しますと、9月26日に当ホテルで行われました「白砂青松復活プロジェクト」を皮切りに、山形県遊佐町にて川の恵みをテーマとしたシンポジウム、鳥海山の広域観光をテーマとしたフォーラムの開催。更には新庄駅周辺で4地域の伝統・文化・交流のイベントの実施など、地域の特性を生かしたイベントを行っております。さて、当地域象潟町について今更ではありませんが、奥の細道で有名な松雄芭蕉が詠った東北でも有数の景勝地であると共に、鳥海山の雄大で美しい自然や、高原部から海岸部まですぐ結ばれると言う大変珍しい土地でもあります。またこうした特長を生かしながら、鳥海山麓 MTB 大会の他評価の高い、秋田トライアスロン芭蕉レースなど素晴らしいイベントが開催される、地域住民の方々一体となって取り組んでいる町であります。本日のテーマであります、鳥海山麓 MTB につきましては競い合うのではなく、精神的に体力的に厳しいコースを自らの力で乗り越え、ハードでかつ雄大な自然を楽しめる2つの魅力を併せ持つコースとなっており、回を重ねるごとに参加者は増えていっております。残念ながら10月に予定されておりました第3回大会は、台風22号の影響により中止となりましたが、これからも MTB 大会を発信源としまして、当地域の魅力を広めていって頂きたいと思っております。終わりになりますが、本日のフォーラムを契機に当地域に根ざした活動が寄り一層広域的に広がり、一体となった活動に展開されるように期待しまして、私の挨拶とさせていただきます。

司会

ありがとうございました。続きまして象潟町長 横山様よりご挨拶頂きたいと思っております。

横山

只今ご紹介に預かりました、横山でございます。歓迎のご挨拶を申し上げたいと思っております。環鳥海秋田・山形県際間連携フォーラムが国土交通省ならびに秋田・山形県際間連携推進連絡会議などの多くの関係者をお迎えして開催される事を心から歓迎申し上げます。このフォーラムは秋田・山形両県の財産として、凄烈で豊かな水と豊富な山菜などを育み、周辺に暮らす私どもに限りない恵みを与えてくれる鳥海山は、悠久の時から、度重なる噴火と荘厳な佇まいから「神の住まう山」として私達の生活に深く関わりを持ち、崇められてきました。本町では鳥海山のかげがえの無い美しい自然と景観を余す所無く、全国に紹介するために鳥海山の勇士を仰ぎながら、裾野を駆け巡るトライアスロン大会を18年前から開催しております。そして素晴らしいロケーションに惹かれて全国各地から500人に及び参加者となる、一大イベントとして定着しております。また3年前からは鳥海山を更に売り込もうと、トライアスロンを主催したメンバーが主体となって MTB 大会を開催いたしております。地面剥き出しの林道を走る、最長100kmのコースであります。豊かな自然の懷に300人の参加選手が挑み、大いに楽しんでいるようでございます。実行委員会で

は目標としてこの度のフォーラムの冠にありますように、鳥海山をぐるっと一周する構想を掲げております。実施に向けて山形県側のMTB愛好者や矢島側のサイクリスト関係者と組織の立ち上げなどを行っている様でございます。まさに秋田・山形県際間連携事業の趣旨に沿った活動を着々と展開している様でございます。この様なことから、私共と致しましても、実行委員が願っている鳥海山一周が一日でも早く実現できますよう、協力を惜しまないつもりでございます。このフォーラムの開催は部分的な交流による観光事業などから、県境を越えて市町村が輪になってスクラムを組み、力を結集させ、鳥海山の魅力を新たに引き出し、全国に知らしめる事を基としているかと思えます。本日後援されます、竹谷先生には昨年アテネオリンピックに出場されておりますが、鳥海山麓 MTB にも 2 回参加されております。地元が見落としている鳥海山の魅力を語ってくれるのではないかと考えております。また地元 MTB 大会実行委員として活躍されている本間、富樫両氏の発表も参考にして、観光産業の振興も含めて、鳥海山を核としたあらゆる産業の広域的な連携のあり方を模索しながら、実効性のあるものに関しては反映させていこうと考えております。最後にこのフォーラムの開催に際しまして、ご尽力頂いた秋田県由利地域振興局ならびに山形県庄内総合支所 総務企画部を始め、沢山の皆様に感謝申し上げますと共に両県の絆が寄り一層深まり、新たな産業が創出される事を期待いたしまして、歓迎の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

司会

ありがとうございました、それでは基調講演に入らせて頂きます。本日は昨年開催されましたアテネオリンピックに出場、MTB ブロライダーであります竹谷賢二様よりお願い致します。なお、竹谷様のプロフィールに関しましては皆様にお配りしましたパンフレットに記載されております。そちらをご覧ください。演題は「自然をいかしたイベント」です。本日は竹谷様のご希望によりもう一方お招きしております、フリーアナウンサーの飯島美和様です。飯島様のご主人は竹谷様と一緒に出場され、プロロードレーサーでもあられます。本日は対談スタイルで行います。それでは、飯島様、竹谷様宜しくお願い致します。

(竹谷選手のオリンピック選考会のDVDを放映・DVDにあわせてコメント～省略)

飯島

ありがとうございました。皆さん、本人を目の前にして食い入るようにして画面を見ていましたけどもかっこ良かったですよね。普段ああいう事をやっていますので、ここにまさにいらっしゃる方がスペシャライズドのMTBを持ち上げていた方ですからね。



竹谷

これはオリンピック代表を決めるオリンピックとか世界選手権につながるMTBのレースのスタイルなんです、色々MTBと言ってもいろんな楽しみ方がありまして、これは純粋にオリンピックを超越した競技のスタイルです。まずは皆さん観客が多い多いとVTRの中でも言っていましたけれども、山の中、しかもアップダウンの中にあれだけ人が入って来ると言うのは凄い事ですよ。土日で正式に後日に地元の方に聞いたら1万人近くロケーションに来たと言う事で町の人口の何人に1人、と言う凄い確立で来ていた形で動員されたようです。

飯島

そう言ったレースを制して見事アテネの切符を手にしてと言う事でアテネオリンピックは如何でしたか。

竹谷

皆さん色々な種目に関して、テレビとかマスコミでご存知だと思いますが残念ながら僕のMTBと言うのは日程上の都合上放送されなかったんですけれども、テレビで見るオリンピックって凄いですよね、盛り上がり感って言うんですか、特別な感じが。皆さん特別知っている種目じゃないんですけどつい見ちゃう。

飯島

寝不足だったと言う方も沢山いらっしゃると思うんですけども竹谷選手も実際アテネオリンピックの前半戦を、家でテレビを見てたそうですね。自分もここに行くんだと。

竹谷

そうですね選手村に入るんですけどキャパシティが決まっているんですよ、世界中の代表の人が入るから僕ら日本人だけじゃないんでそうすると日本人で何百人だけと世界中の人が来れば何千人になっちゃうから一度に泊れないんで前半の日程の人は種目が前の方にある人は開会式に出ましようとか後ろの人は種目の間近に行って閉会式に出ましようとか大きく2つに分かれているんですよ、前半の日程の人、後半の日程の人、だから前半の日程はだいたい僕、家で調整をしてテレビを見て凄いなと見ていたんです。凄く気持ちが高ぶっていたと言うか盛り上がりました。メダルも続きましたものね、皆さんもご存知だと思うんですけどね。前半、水泳・柔道あたりが来ました、行ったら自分がと思っていたんですけどね。鳥海山などでレースが行われるイベントがある時は各地方から来る選手の皆さんが旅館ですとか分担しているんな所にお泊りになりますよねでもオリンピックの場合って世界中の選手が1つの選手村で、よく選手村自体は良く聞きます、村なんですか、1つのエリアと言いますか新興住宅地みたいなのを新たに作るんですよ。選手村ように、オリンピックのために、新たにニュータウンを作りまして、今回はマンション、公園団地みたいな形の物を作って出来た直後に選手村として開放してそれぞれのマンションとかだったら5階建てとかで一部屋にベッドルームが4つ位あって、後はリビングがあって、バスルームが2つあって割と大きなギリシャだったら高級住宅に当たるような物をそれぞれの国ごとに、日本の人はA、B、Cですよとか、少ない選手の所はそれを二ヶ国で分けてとか日本なんかまあアメリカなんか凄く大きいんですけど日本も比較的多い方だったんで3棟位借りてましてその中にひとつのベッドルームにベッドが2つなんで定員は2人ごとに4つのベッドルームだったら8人が入れるわけですよ。

飯島

そうすると例えば自転車なら自転車、ロードとかトラックとかありますけども自転車でない種目の例えば陸上とか水泳・バスケ・バレーそういう色んな人と一緒に同居になる可能性もあるんですよね。

竹谷

それは結構、皆さん意外だと思うんですけど他の種目の方と寝食を共にするじゃないけど、普段は世界選手権とかアジア選手権と言ってもやはりその種目単独で開催されるんであまり他の種目、自転車でも例えばロードとは一緒にならないのにいきなり僕、今回女子バレーのスタッフと一緒にだった。

飯島

スタッフですよもちろん。

竹谷

もちろん女子と男子は違うんで女子のメグちゃん・カナちゃんとは一緒に泊らないですよ、コーチとかドクターとかその方と一緒に。そこでまた交流が出来て。意見交流みたいなリビングで触れる機会があった時お話を伺いして。

飯島

皆さんが気になっている所、食事とかってオリンピックの食事ってどんな感じなんだろうと思うんですが、マンションみたいになっていると部屋で食べれるじゃないですか。

竹谷

そうですねまさか炊事用具一式は持って行かないじゃないですか、選手村食堂みたいなものがありまして、この会場ぐらいのスペースが10個ぐらい、このスペースが10個分、3コマ位でいいんですけどね、広いドーム状の凄い巨大な施設の中に各国料理が並べてありまして、それが巨大な食堂なんですよ、24時間好きな物をフリーチョイスで食べれるというような形になっておりまして、やはり宗教上の事とかウェイトの事とかありますからね。食べてはいけない肉の種類、例えば牛はダメ、豚はダメ、ヤギはOK、ウサギはOKとかあるから、お肉を明記した点とか魚を明記してありますけどお味の方が。

飯島

世界中を代表してくる国を代表してくる選手だからよっぽど美味しい物を食べているんじゃないかというイメージなんですけど。

竹谷

と思いましたが、味でいえば今日こちらでお昼頂いた海鮮丼とか全然違いますよね、やはり地の物と言うか日本だったら特に自然の山のイベントがある所だと海の物にせよ山の物にせよ美味しいじゃないですか。

飯島

そうですね。

竹谷

その場所ならではの感じで、採りたて新鮮、野菜だと青々してるとかあるんだけど、向こうでは全部パサパサしているんです。

飯島

パサパサしていましたか、ギリシャは。

竹谷

暑くて乾燥しているという話通りで、気候だけでなく食べ物も結構パサパサ。

飯島

竹谷選手の話によると鳥海山での MTB1 周のサイクリングの乾物なんだと言っていましたけど、

竹谷

その乾物とはまた同じ乾燥しているにしてもこちらで完走賞で頂く鮭とかは美味しく乾燥させてあるじゃないですか。そ

の完走賞と言うのも1周の完走と乾物の乾燥を掛けて洒落も効いているし、土地の美味しい物をお土産に持って帰られるから僕なんか家に帰っても妻なんか喜ぶますからね。家の妻なんかプロなんで割と自転車の物に関してドライでこんなもんかフーンなんて感じで、だけどお米もらったら嬉しいとか、お魚送ってくれた、なんて素敵な人とかね何十万もするパーティよりもそっちの方に興味が行くような。

飯島

それはかなり分かります。

竹谷

やっぱり鳥海山もそうですけども例えば同じ秋田県でやっている大会では、一位はお米だったりとか参加賞がお米だったりとかそういう時は家族の立場からしてもあそこの何周目の周回賞は乾物だから、お米だからちょっともがけば取れるから、そういう応援になってしまいますね。

飯島

そこで取れと。

竹谷

そうですね。それが食卓に並んでこれが正しくあなたが足で稼いだ物みたいな。それがまた血となり肉となりまた頑張りますから。

飯島

地元の楽しみと言うのも。

竹谷

ありますね、オリンピックはそう意味では楽しみがなかった。勿論楽しみに行っている訳ではないんですけど、選手村食堂が暑いから空調とか効かせてパサパサというのもあると思うんですよ。ギリシャの人、割とフレンドリーで日本人みたいに英語が分から



なくても何とか分かるようにしてくれる、そういうホスピタリティって日本人であるじゃないですか。

飯島

そうですね。

竹谷

そういう感じなんですよギリシャの人ってボランティアでいろんな人にももちろん選手の ID 付けているから優しいのかも知れませんが、皆に対して優しいのか分かりませんが、そういう意味では温かい感じはしましたね、天気は暑いし。先ほどの予選会を見てもかなり暑い。

飯島

暑いという事でコースのレイアウトされたのが地元の方なんですボランティア。

竹谷

あの選考会はそうですね、もともと愛媛のヤハタハマという所なんですけどもそのエリアに住む人が MTB が好きで市の有給の場所に何とか作れないかと働きをした所、許可が下りて始め手作業で木を切り開いてスコップで地ならしをして 1m 進みましたよ、今度 2m 出来ました、じゃお前も手伝え人が増えて 5 人でやったら 10m 出来た、100m 半年掛けて出来ましたと言って走ったら楽しいな、じゃもっと広げて行こうよと言うのがそこを中心地となり輪となりコースも実際大きく延びて輪となってオリンピックの代表を決められる位まで作り上げられたんです。

飯島

やはり選手がオリンピックを目指してこの一発勝負に賭けているわけですからコースもかなりシビアですよ。これさえ無かったら、このアクシデントが無かったらそういう物が一切許されない場面ですよ。他のレースにいくら強くてもたった 1 回でもそのレースに勝つか負けるかが全てを決めるわけですから入念な準備を重ねますしね。愛媛県でそう言った地元の皆さんがという話をしましたけども鳥海山も自分もそうだった、私達もそうだったという方も沢山いらっしゃる。リンクした所が、似ていますよね。

竹谷

そうですね、色んな所に見受けられますけどもそう言うって自分たちの手に豆を作って実際にやってくれている人がいるから僕ら遠くから来るバイカーが走れるわけです。私たちは出来ている現場にその日とか、前の日にコース出来ていると当たり前を感じていたんですがこれを作るまでというのは本当に大変な地元の協力だったり一人で始めた事がきっかけで一人が二人なりと広がって行くんですよ。僕らはちょっとそこを走れば速いかもしれませんが道は作れないんですよ。

飯島

なるほど。

竹谷

作られる人がいるわけですからそういう人たちの気持ちに伝えるためにも走って下さいよと言われたらちゃんと走らなければならない。それを走る姿を見て作った皆さんたち、携わる皆さんたちこのコース作って良かったと思ってもらえるパフォーマンスを出さなきゃいけないのが僕の仕事です。一般参加者の方が僕が例えば速く走ったら凄いなと驚いてもらったらリフレッシュになるしあるいは一般の方が参加したら例えば鳥海山を走って笑顔でゴールしてくれればそれがなによりかなあという気がします。あとその会場と言うのが何年のオリンピック予選の時、ここが使われたんだと言うのが受け継がれて言い継がれて行くじゃないですか、そうするとその会場の利用方法もどんどん広がって、何年のオリンピック予選やった所だから実績にも。知名度も上がりましますし、例えば僕らがオリンピック選考のコースを呼ぶ時は何年オリンピックの選考コースと言うよりはダイレクトにヤハタハマと地名を言うんですよ、だからイベントの開催地を指す事が多いんですよ。

飯島

そうですね。何とかサイクリング何百 km じゃなくて、ずばり鳥海山出るとか、来年鳥海山行くとかダイレクトに固有名詞でイベントを指す事が多いですよ。

竹谷

何月は鳥海山だとかそういう会話ですよね選手達の会話を聞いているとスケジュール表にも何の大会例えば全日本選手権じゃなくて地名で書いてあるんですよね。第何回新春何とかマラソン in 青梅じゃなくて、青梅出るとかマラソンで言えばそういう感じになります。それで続いてしまうくらい会を重ねる毎に選手に浸透して行って、周りの人にそう言って来ますんでその場所に対する愛着とか知名度と言うのは口コミで広げて行けるかなあと言う所はありますよね。

飯島

そうですね。やはり皆さん映像だったんですけど見ていて凄いなこれは実際山の中で見てみたいなああの映像を見て思われた方も沢山いらっしゃると思うんですよという事は選手が家族をひとり連れてきて応援してよと連れて来てその人がまた凄いなだよ凄いなだよという事でその土地土地にいっぱい来て下さる方が。

竹谷

僕も娘が居るんですけどね、やはり独身の時は自分で気軽に行ければいいやと思っていたんですけどもしくは仲間と楽しく行ければいいやと思うのがあるんですけど、やはり妻がいて娘がいてせっかくお父さん頑張るんだからどう思おうがとりあえず見せて置きたいなとちょっとそれで尊敬してもらえたら嬉しいなという所もあるから家族ぐるみで来れるとかそういう様な場所だと誘いやすいやすかったりしますよね。

飯島

私も今日、庄内空港からこちらに来る間に道の駅というのが沢山あって竹谷選手とも話していたんですけども、道の駅が沢山あるという事はしつつい寄りたくなってしまっって遠征の楽しみでもあるんですけど。

竹谷

そうですね、飛行機でビューンと来ちゃうと何だかその課程を全てはしょっているからどこへ行ったか何をしたか結構希薄になってしまうので行き先が違うだけで方法は一緒だから、着いた先で道の駅でワンクッショントランジットするとね、ここはこういう特色があるんだとか何が美味しいんだという物がリアルにそこで初めてインプットされるとか。鳥海山に来る間にこの道の駅ではこれがあるんだよ、それが毎年楽しみになって競技だけではなくてそこに行くまでのプロセスも楽しめますね。だいたい僕なんか結構来てるんです、ここ何年か4回くらいですかね来ていたりするから、だいたいさっきの鮭と同じじゃないけど鮭から生まれるイクラ、そういうのが道の駅で実際安くて美味しいんですよ、だから気持ち悪くなるくらい食べて、そういう事も印象に残りますよね。やはりそれも MTB をしているからそういう大会に出る機会があるからこそ出会えた物でもありますよね。そこに有るから来るわけであって、例えばイクラだけを食いたいのであれば今、回転寿司でも何でもあるじゃないですか、セブンイレブンでも売っていますからね、そういう物よりは自分で来てそこを走ってそこで食べる事に価値が生まれるんですよね、美味しさも全然違いますからね。

飯島

竹谷選手、鳥海山の方に4回ほど。

竹谷

そうですね、下見ですとか雑誌の人と同行して下準備として走って見たりとか後は第一回走って見たりとかそういう形でいろいろ。その第一回の時は本当に鳥海山1周、県を越えてですよねとなり山形県も走ってという事でひとつのイベントで県を越えるって凄い事だと思うんですけど。逆に言う僕がプロを置いて一参加者だとすれば一参加者にして見れば鳥海山は鳥海山なんですよ、鳥海山はひとつなんですよ。ここからここは鳥海山でここからここは何と分かれているわけじゃなくてひとつですからそれを走れると言うのはぐーっと走ればそれはダイナミックな魅力になるんですよ鳥海山というのに一部分だけだと印象も4分の1しか走れないと4分の1になってしまいますね。先ほどご覧頂いた様な競技的なものですと山の一部分を何キロ、短い距離数を周回してそれで距離を2時間半ぐらいに設定される。山に行ったけど山全体を覚えていない所は全く無いですね。同じ所をぐるぐる回っているんで、早く走ろうと努力しているかもしれないんだけどあの山の見晴らしはどうだったとか、あそこからは何が見えてどうだったよというよりはあそこの石がどうだったとかあそこのコーナーの曲がりがどうかね凄くミクロの世界でしか見てないん

ですよ。かなりテクニカルなコーナーがありましたからね。杉林の下りがどうかラインはあそこを通るとか、じゃそれって全体はどうなのと言ったら何にも分からないと言うのが実情なんです。本当に山の中のごく一部の部分でしかないわけですね。一部をぐるぐる回っているだけで魅力を幅広く感じづらいですね。鳥海山を1周回られた時というのはいつもスピードを争ってごく一部の山の中のほんの一部の競技とは違ったスケールの大きさじゃないですか。実際は同じ MTB なんですよ。同じ自転車を使って同じ人間が走るんですけどスケール感というのがいろんな事を変えますよね。例えばよーいどんと早く走んなきゃと言うと目も当然吊り上がって集中してこう成るじゃないですか、でも 160kmとかで山をぐるっと回って来るんだったら先は長いんであせってしょうがないじゃないですかのんびり行こうやじゃないですけどね実際ののんびり行かなきゃ走り切れないんでね、だからちょっとの事には目くら立ってなくなりますしね気持ちに余裕を持って乗れば立ち止まって風景も見れますし。

飯島

そういう面ではレースに日本全国北海道行ったりとか九州に行ったりとかしていらっやいますけどもそれは競技のための一部の所だけであってこういう風に鳥海山1周、山を丸ごと感じられると言うのはこのイベントならではの。

竹谷

そうですね日本でもどこでも出来る、どこでも出来る所が無いと言うのが他にはない山の特徴だと思うんですよ、例えば山が俊敏すぎたら当然回れないですし、距離を取ろうと思ったら山を何個か繋げなければ出来ないんだったら道もなければ繋げようもない当然、繋ごうと思ったら鬼道になっちゃうから回っては来れないじゃないですか行ったらきりですよ。だから普通では難しい条件なんです、ぐるっと回って来るという事は、山を走るレースというのは下から上に登っていきにダウンヒルするレースも同じ山に登るんですけどもそれも道を一本しかないですから結局、山の片側ですから上に登って達成感ですとか兆候ですとか、味わえるけど360度のパノラマ的ではない上下には動きますけど。

飯島

そうですね何千メートル上がりましたよというレースはかなり全国いろんな私たちの山でもありますけど、360度回って来るというのは無いですよ。

竹谷

またそれが例えば林道だけではあるんだけど盆地みたいな所だったらどうかという回りから多少の違いがあっても盆地であれば山はみんな山肌しか見えないんだから余り他は変わらないんですよ景色がね、でも鳥海山だと始めは海から始めてイベントの時だったらそれこそ朝日とともに朝日より実際ちょっと早いんですけど日が昇る前に走り始めないと帰って来れないんでね、こっちから来たら先ず登ったらこの辺からオンシャンビューが見渡せてこう言った山間の風景をちょっと下って山村風景を少し懐かしい感じがする所を通りながらこっちからもダイナミックな荒れた道をわへわへと自分の力で登って鳥海山を見て登って行ってその後はまた、登ってきた分豪快に下ってそれで後はまた、口では簡単に言っているんですけど朝がお昼になって日が陰って来て、太陽がこっちから来たら日本海に沈む様にしてこっちではもう夕方になって夕日に向かって下って行ってゴール見たいな、一日を通して 360 というのもそうだし朝から晩まで時間軸を通して楽しめて変化があってそれこそ時計を外しても太陽があるだけで日が暮れちゃうとかそういうのが味わえる訳ですよ。

飯島

それが味わえるのはいろんな各地にある山、中でもやはり鳥海山ならではの。

竹谷

そうですね海に沈んで行くというのは MTB というくらいだから山間でどうしてもやる事が多いんで海に沈む夕日なんて言うのは余り直接はあり得ない、MTB のレースをして海に沈む夕日を見れるというのは少しぴんと来ないですよ、鳥海山ならではのいろんな条件が揃ってそれで出来ているレースなんですよでもやっぱり車で鳥海山行ってきた観光に車でドライブに行ってきたとはまた違いますよね。人間やはり動物だから身体を動かした方が脳みそも良く働くんですよ感覚がね研ぎ澄まされて行くというか簡単にいうとお腹がすく感覚とか疲れたとかさう言うのもそうだし、視覚というのも感覚だし嗅覚も感覚だしね皮膚感覚も

あるから空気の移ろいとか臭いとか景色の色合いとか目で見た方がより物事を身体を使って動作を伴って見た方がよりリアルな世界として感じられるんですよ、車で今だったらエアコンが効いて汗ひとつ流さないでただ車に乗られてもそれは映画館で見ているのと変わらないんですね、くつろいで見てプロジェクター越しに見ているのと快適な車の中でウィンドウ越しに流れる景色を見て。

飯島

確かにそうかもしれないですね自転車に乗るようになって感じたのは季節の臭いですね、車だったら本当に通り過ぎてしまっただけで分からない物ですもんね。

竹谷

外界とシャットアウトされている無菌的なものの中に入って行くのとは鎧を着けていては入って行っている訳ではないんでねそう言うのを取って自転車とか徒歩でも何でもいいんですよ自分の力で、スキーで行ったらテレマークスキーとか自分を動力として動く、そういう感覚を得られると思うんですけどね。例えばテレビを見ていて鳥海山の自然の観光番組があったとするじゃないですかテレビを見て綺麗な行きたいな、車で行きました車で見ましたそれはテレビで見ているのと変わらないですよ、テレビと同じ、ここだここだ、ただ確認しビデオを巻き戻して見るのと変わらない作業ですよ。だからそこで 10 歩でも 20 歩でもいいから駐車場から降りて高台に登って見るとかね、その 10 歩が車で来た事をより良くすると思うんですよ。10 歩とか 10mとか歩くだけでいいんだったら百何十キロ走ったら 10 何倍も凄いわけなんだから長い距離を長い時間掛けて走るというのはさっき言ったサーキットで 2 時間を早く走るというのも確かにオリンピックに出たいと思ったら必要なんだけど、そういう感覚が味わえるかという味わえても 2 時間で終わっちゃうわけですよ長ければ長いだけいろんな事が味わえますんでね。鳥海山のサイクリングというのは本当によいいどんで先ほども凄いダッシュでしたけどもまあいった事ではなくて 1 周する事に意味があるそれぞれのペースで楽しみ方も違うと思うんですよお気に入りの所で写真を撮ったりとか。いろんな楽しみがそれに含まれていまして、もちろん例えば毎年出ている人だったら体力測定みたいなものでね去年は 10 時間だったから今年は 9 時間 30 分だったら嬉しい体力上がっているとか自分がどれくらい元気が増したか見たいな、そのような年間を通する物指しとしても見れますし単発的に出る方でしたらその場所、そういう機会を生かしてきた場所だからいろんな所、眺めを楽しんだりとか途中で休憩して食べないとエネルギーが切れちゃうんで食べるものもその場所で売っていたお饅頭とか何とか羊かんとかそういうのを食べながらとかすると良いんですよ、人間の行動するエネルギーに食べ物になりますんで、それもこちらのイベントとかだとその場所にあった物をエイドステーションという形で手助けしてくれる場所があるんですよ牛乳だったりとかその場所の高原の牧場だったりとか後は地元の人を作ってくれたうどんとかね食っていけ食っていけ言われてね。その様な物が走る力になるわけですねガソリン、車でいえばガソリンは排気ガスを出すけど人間は呼吸だけですだから苦勞して例えば自動車メーカーとかゼロエミッションビークルを作るんですよ、排気ガスを出不さい人間なんか何もなくてもゼロエミッションビークルだから自分が動けば、ガソリン今百何十円かしますよね、120 円だとアンパンとか買えますよねそうするとそれが食べれば 1 リットル入れてもいい車とか 6 だけちょっと経済的になると 10 超える位ですか、僕なんかアンパン 1 個食べればそうですね百何十キロくらい走る。

飯島

それはきっと竹谷さんだからだと思いますよ、皆さんアンパン 1 個で百何十キロといわれても。

竹谷

経済的というか鳥海山ぐるっと 160km 走るのにアンパン 1 個で済まないんで 3 つ 4 つは欲しいかな。その鳥海山走る間にね地元の美味しい物を食べながら、それも楽しみで先ほどのうどんとか作っていらした方はあの選手は俺のうどんを食べてオリンピックに行ったんだと言っていらっしゃると思うんですけどもそういった事であそこの大会に行ったらこういうのが楽しみだ。また今年も来年も何回も来ているうちに地元の方で本当にまた来てよ、ただいまという感じでふれあいも出来ますもんね。そうなってくればイベントとしてその場所だけでなくて広がりという意味でもそうですね、僕なんか実際、関東の千葉のね千葉市の内陸なんで利根川沿いで全く平坦で何にも無い、メリハリも無い所なんですよ、そういう所に住んでいてもこういう場所に帰ってくれば何か

あるというそういうワクワク感というのがありますからね。

飯島

それもやはり竹谷選手が MTB をやっているから来れた場所です。竹谷選手は皆さんご存知かと思いますがサラリーマンだったんですね、普通にサラリーマンをフルタイムに働いてらして本当にキッパリサラリーマンを辞めて競技一本に絞ったのはお幾つでした。

竹谷

30 の時にそれを決心したんで行動したのが 31 の年で今 35 年で 4 年間それで過ごしているんで。皆さんえーと思われた方もいらっしゃると思うんですが、今からでも皆さん間に合いますよ。

飯島

そうですね 30 からならばオリンピック行ったわけだから行けない事ないわけですね。竹谷選手が実際にオリンピックに行ったという事でおっしゃっているから凄くそれじゃと思う方もいらっしゃるかも知れないんですけどやはりこうサラリーマンの時というのは普通にお勤めで。

竹谷

そうですね、普通にネクタイをしてスーツを着て企業に訪問をしたりとかしていたんですよ、ほんとくと月曜から金曜まで仕事で土日は家でのおんびり、そうっちゃうと全く外に出ない土に触る機会もなければ雨に濡れる機会も無い、風にも当たらなければ。そういう生活から一転。そういう生活がどうかな見たいな所があって日本海沿いにある新潟の長岡という所に転勤した時に山間の所なんで緑が結構深くて青々してて、いいな見たいな所でちょっと前に MTB 乗っていたのをこういう所で乗っていたら気持ちいいだろうなと思って、そこでまたやり始めたのが競技に繋がる第一歩だったんですよ。オリンピックを視野に入れたというか。全然入っていなかったですねその頃は、ただ山道がありそうだから MTB ってタイヤが太くてサスペンションとか付いてフレームが太くてカッコいいな、だから買おうとそういうノリだったんで全然オリンピックなんてテレビで見る世界ですよ。先ほどもスタッフの方がカッコいいぞあの自転車あの自転車カッコいい、そこから入っていく方も沢山いらっしゃると思うんですけども、そういう物を手に入れたら山に乗りに行きたくなる。こんどそういう触れているんな事が感じる様に成ったらせったくたったら何かに頑張ろうかなと思って何か目標が欲しいなと思って、専門誌とか見るといんな所でイベントがあるから出て見ようかなと思って行って見たんです。サラリーマン時代には想像も付かなかった事とか、自然との関わりとか意識されていなかったのがいきなり山の中に入って行くと山ってこういう物なんだ。簡単な所だと新潟なんで春が遅いんですけどね雪が山間だと残ってていつぐらいまで、本当に雪が残っているの山間はね、街中はすぐ消えちゃうでしょ春になればね、でもこんなに春って遅いんだとか緑が成って来たらあつという間に山深くなるんですよ、もののけ姫じゃないですけどあれぐらいの感じで今週雪解けて来週行ったら良くて、さら来週行ったらどことあったけと言うくらい変わってね、夏になると草ノ瀬が伸びてね。それはデスクワークをしていたら季節をそういう風に感じる事って無いですよ、秋になったらまた枯れてね冬前になったら雪が降って来たらもう行かないとかだったんで、そういうのが車乗ってそういう会社に入っていたらウィンドウ越しにはチラッとは見えますけど現実味は無い事だったんで。

飯島

昨年この大会、第 3 回行われるはずだったんですが 10 月の台風により中止になってしまって、その頃竹谷選手はフィリピンで。

竹谷

アジア選手権というのがありましてアジアの域内で No.1 を決める大会があったんです、飛行機でビューと成田から行ったらどす黒い雲が渦巻いて居まして大粒の雨が、凄いな大丈夫なのかなと言ったらしばらくしたら翌日には少しどす黒いのが薄っすらグレーになってね直ぐに青空、時折スコールが降るぐらいな感じになってあー良かったなと言っていたらその台風が日本に来ちゃった。

飯島

それが第3回の鳥海山サイクリングに台風が来て、竹谷選手もフィリピンのアジア選手権が無ければもちろん第3回に出ているんですけど、台風と入れ替わりにフィリピンに僕は行っちゃった、竹谷選手悪い事ばかりじゃなかった、大会でアジアチャンピオン昨年10月にアジアチャンピオンになられたんですよね。

竹谷

その頃鳥海山ではやるかやるまいかどちらか、僕は勝ってハッピーだった光と影になっちゃったんですけどね。今年も是非、今年こそはって感じですよ。毎年いろんな所に行くんですけどね、その場所しかないとか、ここにしかないというそういう魅力があるんで是非走りたいですね、また事あるごとに会う人どんなの出るの楽しいと聞かれたらこれとこれ、挙げる中に大体入っているかな。完走賞の乾物であったり、どうしてもやっぱりレースやっているからさっき言ったサーキット速いだろうとか、評価なりがちなんだけど場所をもっと大きく走れるという物の方がわりとお勧めはし易いですよ。誰も一番になってオリンピックに行きたいというのがなかなか厳しいじゃないですか、でもそうやって楽しむのならその人のマイペースでいいわけだから誰が出ててもそーはずれが無いんでね、誰よりも速く走りたいという人はあのようなレースに出なければダメだけど、そうじゃない楽しみ方もあるわけ。そのスタイルがありますんでね、そうした時にはそれぞれのアプローチで楽しめるイベントの方がお進めし易いですよ。

飯島

もちろん、今シーズンが始まっているという風に言ってもいいと思いますけども冬場のトレーニングから鳥海山の事もスケジュールの中には多分入っていると思うんですが今年の活動のスケジュールなどは。

竹谷

そうですねだいたい昨年でオリンピックを目指すひとつの活動は終わりましたんで、今年は今までの活動はベースとしてやりつつもさっきのビデオの中でも触れてましたけども次のオリンピックを目指す様な若い子に対してもっとこうしたい方がいいんじゃないか、あしたの方がいいんじゃないか見たいなそういう様な道先案内見たいのを考えたりとか、あとはこういう残したいイベント、残したいイベントと僕が言うのもなんなんですけどというのも微力ながら出来る事があればやりたいなと思いますし。

飯島

実際に走っていらして第1回の大会から関わっている竹谷選手からもどんどん伝えて言って頂きたいなという気もします。

竹谷

一昨年、3回に出た時は100kmになったスタイルなんで僕だと4時間切っちゃう位、3時間59分ちょっと短いんでせっかく来たんだから長く走りたいなという所があるから一周だと今山形県に入ったぞうという、まだまだこれからだ、まだ6合目くらいな感じで160km位だと。だから長いのを走りたいなという思いはあります。参加者の皆さんも県を越えて、今まさに県境を通るというそういう楽しみもあると思うんでね。やはり距離が長くなれば長くなるほど肉体的にも装備を準備しなければいけないんですよ、そうすると指折り数える時間をより多く取らなきゃいけないんですよ100kmだと、例えば3ヶ月トレーニングすればあるいはちょっと健脚な人なら走ってこれちゃうけど160kmそれもその山岳で走ろうと思うと僕もちょっと準備しようかなと思いますね。その準備期間も楽しみの間、皆さんの頭の中はもう鳥海山の事で準備期間もいっぱいという感じなんですよ。例えば100km4時間だったらそれこそ明るくなってから6時に出れば10時に帰ってきちゃうんですよ、ただいまーと昼飯前。

飯島

昼飯前に帰れるのは竹谷選手だから！

竹谷

だからそれが伸びれば日没までに帰らなきゃいけない。帰れるか、ライトは装備はどうしようとかライトを持つと重くなるから速く走らなきゃいけない、いろいろ考えるプランと後は自分のペースをどれ位で走れるかを逆算してね食料は何を持って行かなければだめだとか、いろいろプランがより濃くなって行きます、幅広くなってより選択肢が増えてくるわけです、そういうのを事前に選ぶ楽しみ選択肢の距離が長くなれば増えていくんで来る前の楽しみというのが増えますよね。運営される方はそれだけ道路を止

めたりとか交通の事も大変だと思いますけども。ただ基本的に自転車で普段乗れるというか、じゃこしか乗れないよとかじゃなくて乗っている人はどこでも乗っている訳じゃない、自分のホームグラウンドで自分の町でそこで誰も一時停止とか守らないで飛び出したりとか明らかに危ない行為を皆さんしないじゃないですか、だからちゃんとマナーとかモラルを守って走れば基本的に日本全国で走っているもなわけだからそれを特別に集めたからって本来は問題ないと思うんですね、マナーとモラルが守られていればそれを一番決めましょうと言って我先にしてしまうとマナーもモラルもぶっ飛んでわれ先になっちゃうからそういう事を抜いてね一番が偉いわじゃないよとマナーとモラルを守ってね安全に楽しく走れた人がいいんだよという事であれば、三角にしているのが馬鹿らしいですからきちんと転ばないようにとか廻りに迷惑を掛けないとか当たり前じゃないですか、特別な能力じゃなくて普段皆さんやっている事だから自転車乗っている人が皆、暴走族だったら凄い困りますけどね、暴走族を一度に集めようと思うならお正月の富士山見たいになっちゃいますからそれは大変なんだけど、普段ちゃんとマナーとかルールとかモラルを守って乗っている人だからそういう人が集まれば別にあおられない、あおる必要が無い事だから問題は無いのかなという気はしますけどね。

飯島

そういった自転車ならではの楽しみ方、竹谷選手が感じた鳥海山の楽しみを皆さんにどんどんこれから今年も広げて行って頂いてどんどんこれからも鳥海山の大会も大きく。

竹谷

そうですね人気、鳥海という名前も広がって行けば嬉しいですね。という事でまた、今シーズンもこれからですけども頑張って頂きたいと思います。竹谷選手どうもありがとうございました。

司会者

竹谷様、飯島様どうも有り難うございました。もう一度お二人に盛大な拍手をお願い致します。

司会者

山形県のダリヤカップMTB大会開催者であらせられます本間芳弘様よりお願いいたします。本間様のプロフィールに付きまして入場の際に皆様におくばりいたしましたパンフレットにご紹介しておりますのでそちらをご覧頂けますようお願いいたします。演題はダリヤカップMTB大会in川西です。それでは本間様よりお願いいたします。

本間

こんにちは、本間です。だいが緊張しますやっぱこういう所、先日パソコンとにらめっこしてやって見たことの無い物を打って見たんですけど正直これが使えるか使えないか分からないんですけどパンフレットの中で先ほどいろいろMCの方が言ってくださったんですけども妻一人、妻二人も三人もいれば有難いかどうかあまりにも家内に失礼な事を書いたかなと恥ずかしく思っております。このような席できちとした席でダリヤカップの事例を発表するという事、今まで無かったんでちょっと緊張してるんですけども竹谷選手の前とかあと自転車界のアイドル飯島さんの前とか今緊張して素晴らしいオリンピックの話とかそういった後に私の様なおちゃらけの自転車愛好家が出て来て失礼かなと思っておるんですけども。何を言い出すか分かりませんがその辺は余計な事をいったら全然構いませんので突っ込んで構いませんので、私の所は川西町という所から今日来たんですけどもダリヤカップに参加して頂いた方、先ほどの三笠さんとか何度も来て頂いて常連さん先ほども昨年出たんですけどという方がいらっやいて知っているとは思うんですけどちょうど直ぐそこから県境の山形なんです山形県の一番下の方です。ちょうど米沢のちょっと上、山形県の形って人間の横顔のような形をしているんですけど、そのこの顎の辺りですね、先ほど入口でこれダリヤアイランドとかこの裏を見て頂ければ分かると思いますけどもその辺は徐々に見て頂ければいいと思います。大体ここから180kmぐらい、今朝7時に出て来たんですけど長靴すばと長靴埋まるくらい朝雪降っていました。その後、月山新道抜けて来たんですけどこの吹雪で明日帰ると下手すると腰ぐらゐまで雪積もっているかなと、車庫の前積もっているかなと家に帰ってからスノーダンブで押すのが大変だなと思ってます。川西町、ダリヤカップの会場なんですけども盆地の真ん中、ほとんど真ん中にあって秋田

の秋田こまちには負けちゃうんですけど、どまんなか・はえぬき・ささにしきなんか作っていて農業の町です。それで、観光の目玉がダリヤ園になっているんですけどもそこでダリヤが最盛期の時期にダリヤ祭りの一貫として MTB の大会をやっている、それがダリヤカップ大会 in 川西と昨年で7回、今年8回目を向かえる予定です。ここでちょっと一番最初の始めた第1回目を始めた時の苦労話というか何でも始めてやる時は前例を作るというのは大変な事で、その辺の苦労話なんかをちょっと一言だけ、平成10年の春にこちらダリヤ園に遊びに来ていた方から、MTB に乗っていたコースに来た方がここでMTB大会されないかと言われたんですよ、そうですねと私が答えました。それで先ず役所というか役場の方に聞いてみて、でも突然どこ馬の骨が分からないものが突然行ってしまうんじゃないんでこういう時やっぱ利用、利用といっちゃぶちょうなんですけどぶちょうかどうか分かりませんね、町会議員の先生に自転車の大会、MTB の大会をダリヤ園でやりたいんですと観光課をお願いしてすんなりとは行かなかったんですけども、あまり聞いた事も無いような MTB ていうかね川西では MTB、モーターバイクのバイクのイメージしかない父ちゃん・爺ちゃん方しか居なかったみたいで観光協会、観光課の方も先ずやって見たらいいかという様な感じで始まった訳です。



本日一緒に来て頂きました観光協会の飯田さん本当に迷惑掛けてまして多分、飯田さんもやりたくは無かったと思うんですけど上の方から課長あたりから飯田、お前手伝え何て言われたんだと思います。飯田さんももう7回お会いして慣れて下さって私より先に次々とやってくるので、今では400人レベルのMTBの大会にはなったんですけども一番最初なんか締め切りの10日前ぐらいは20人ぐらいしか申込みが無かったんですよ正直言って観光協会に

行っても扉を開けても誰もこっちを見ない、うちらの方では鼻も引っ掛けてもらえねという状態だったんですけども、正直言ってダリヤの咲いて一番忙しい時にめい一杯やっているのにまた行事を増やす事自体も誰もやりたくなかったのかなと今思います。それでもしょうがなく、待っていてもしょうがないという事でFM仙台の方に電話を掛けてましてダリヤカップの告知、PRをしたいんですよと言ったら生放送で出させて頂きましてそしたら直ぐ観光協会の方に連発で掛かって来まして、その辺は観光協会も驚いた様でとんとん拍子に申込みが出て来て前日までには133名と1回目にはいいくらいかなと133名で始めたわけです。交通整備はしなくてはならない、草刈機借りて朝と夜とダリヤの近くで一般の住宅もあるんで朝5時から草刈の機械回すわけには行かないんでなかなか大変でしたけれども内山沢という整備したコース遊歩道もともとダリヤ園の周りぐるっとあったんですけども春は山菜・秋は松茸・しめじが出る所なのでハイカーとのトラブルが無いようにして下さいと良く言われたんですけども、そういうトラブルも無く今に至っているわけです。では写真の方からちょっと明るくて見えないかも、ダリヤカップMTB大会 in 川西、左上の方に原爆ドームみたいに見える失礼だと怒られるんですけど、どうしても原爆ドームにしか見えない、ダリヤの花をイメージしたヨククセンターマドカあそこは温泉が入れる所であそこのドームの上に上がれるんですよそうするとダリヤカップの会場が一望できるダリヤ園も見える凄いい所なんです。レース終わった後は風呂に入って頂いて汗を流して頂くという様な形を取らせたい。ダリヤの花なんですけど、正直って自転車の事は私、話せるんですけどダリヤの事は全然分かりません。とにかくちやい時から見ている花なんですけどもちやい時からダリヤ園に行って遊んで、ダリヤの事は十分知っているかなと思ったんですけどほとんど分かりません、でもお花は綺麗で皆さんよく来てくれています。ここがちょうどダリヤカップ走るコース辺りからダリヤ園の方を見た景色です、いろいろ書かれていたと思うんですけど650種5万本ほどのダリヤが咲いている、凄く大変なんです準備が、春に植えて花が終わるとまた球根掘って大変なことをやって8月1日オープンで、すいません暗くて見えなかったんですよ5月の受験勉強以来です電氣付けたのほとんどしなかったんですけどそれでは次のコース、このコースの紙、皆さんさっきの資料の中に入っていちゃってと思いますけど左上のこちゃこちゃしている所がダリヤ園なんです、そこからプリントの方で見て頂きますとマドカと書いてあるのがさっき原爆ドームと馬鹿にした温泉浴場なんですけどその辺の右側あたりからスタートするんです、その辺はジープロードで砂利道でずうと右側真ん中あたり行きますとG地点3番辺りです。ねその辺から右に行くと4番の1・2に行かず

うと高虎山山頂の麓のC地点、そこまではだいたいジープロードプラスダブルトラック位でC地点から今度左の方にD地点この辺から下の方に降りて来るんです降りて来ましてE地点向こうのE地点にあってから小松スキー場という所に来てダリヤ園を1周回って来るという様な形でクロスカントリーレース、鳥海山の場合はサイクリングで楽しむんですけども、このコースはなかなかこの程度な物ですからクロスカントリーという事で先ほど竹谷さんの講演でもDVD見せて頂きましたがあの様な感じでマラソンと同じでヨーイドンと出て行って一番最初に帰ってきた人が一等賞という様な形でダリヤカップはやらせてもらっています。ここが先ほど地図上でもありました芝生の部分、今テントとかタープ張られています、手前ダリヤといわれている所なんですけどもちょうどその真ん中辺りお父さんと子供がちょうど手つないで歩いています、あの辺がコースに使われております。これ開会式で水上ステージ、ダリヤの一番端に丸い直径20m位の池に10m位のステージが丸く付いている丸い池に丸いステージが付いていて柱が大理石の大理石じゃないんですけども5本立っていて竹谷さんが去年行ってきたギリシャのパルティナの神殿をイメージして作ったかもしれませんけどもあまり似てません。ここ向かいにあるアルプススタンド、うちらアルプススタンドと言っていますがちょうどこの池の上に湖があるんですけど、その載り面に作ってくれたスタンドで本日見えてます社長ここに写ってますね、そこでこのベンチ200mくらいあるんです200人は座れるという事で次、これスパーキッズクラス、ダリヤカップの場合はゼッケン1番から並んでいますけども補助輪付きの子供たちのクラスです。ちょうどニコニコ笑っている顔の子供を見るとまた来年もやらなければと思うんです、やはりこういう笑顔に出会えるとやっけて良かったなと思います。補助輪が付いているとなかなかコーナリングが難しいです、転びそうな子供も居るんですけども1周ここは200m位、これはその上のお兄ちゃんクラスかな必死に引っ張って一生懸命、子供たち前がシングルギアが多いですねやっぱり、スペシャルではあるんですけど前3枚ギアが付いていると軽く出来るんでしょうけどなかなか、前シングルギアの子供だとなかなか登れなくて登りは押している子供が多いです。その横で父さん母さんが、それいけーと一生懸命応援するんですよ、そうすると子供は必死に行くんですよ心の中ではそんな事いわれても困るもんとか疲れちゃってダメだ自分で走って見たらいいのと思っている子供がいるかも知れませんがでもダリヤカップの場合はお父さんが出てお父さんお母さんも出て家族で出てという場合が多みたいですね。普通ですと自分が走っていてスポ小なんかですとお父さんお母さんのお母さんが必死に追っかけやって応援してるんですけども、大人も一緒に走れるという事でちょうどダリヤの脇をちょうどおじいちゃんが見ている本当のおじいちゃんか分かんないですけどおじいちゃんが孫を見ている様なシーン、こういうのがダリヤカップでは見れます。竹谷さんのお孫さんじゃないですけどレプリカですね、自転車のスペシャのワークスM5に乗っている新潟のお子さん、この辺は大人と子供ファースト初めてレースに出る方と後ろがジュニアの子供たちです。この辺はビギナーのクラス、初級者といってもレースには何度か出た事はあるけどもまだ初級かなというクラスの方々、この辺はJシリーズでも頑張っていますチームの方ですね。ダリヤカップの特色としてはですね、クラブアスリートの方いますね誰かいませんか、会長さん57歳素晴らしいですよ、ここ昔のスキー場口フトの跡なんですよ、ここ最後の下りでここは本当にスピード出るので気を付けて頂かないと最終コーナーが曲れなくなってテープを切って突っ込んでいくというのが良くあるんです。先ほどの三笠さんですね三笠さんが最後の所。女性が結構多い大会という様な感じがします、先程も少し女性が写っていましたがでも女の子がいっぱい出ているという大会かなと思っております。これがスタートいっぱい居ましたけども150人位一気にスタートするんです、正直な話クロスカントリーですとクラスが何個も別れてコースも別れているので、すべて一緒にスタートするという訳には行かないんでなるべく同じクラスを走るビギナークラスの場合ですと年齢別に分けてほしい40人位出て3クラス分かれて130人、女性20人で150人位同時スタート凄いです、草木の上に3本の松の木が見えますけどあそこがスキー場でさっき三笠さんが降りてきた所でそこを来るとちょうど本部の近くにジャンプ台作ったんです、バンクしたりジャンプしたり世の中不思議なもので空中に飛び瞬間を体験したいというわがままな方がいまして、うちらがそれを応えるから毎年こうした方がいい、あしたの方がいいと言われると、じゃやりましょうかバンクを作ってください、ジャンプ台を作ってくださいといわれるとこうしてジャンプ台作る訳ですよ。でも必ず飛ばなきゃならない訳じゃないんですけども、回りで飛べーというといついつい飛んです皆さん飛んだ事の無い人が毎年ここで2・3人はこけるんですね、怪我はした事は無いんですけど次の日は打撲で痛いんじゃないかと心配する様な気がします。これ閉会式、開会式の時は余り人が居ないんですけど閉会式になるとどういう訳か人が増えるんですよ、抽選会もある

って地酒の日本酒が当たったり、米沢牛の漬物とか粕漬・味噌漬なんか米沢牛に付く、後はダリヤカップの特色に応援クラスがあるんです自転車は乗らないんですけど弁当と抽選会にはまれてそういうクラスを設けるとそこに家族で来ているお父さんお母さん、じいちゃんばあちゃん自分の子供が出る時は応援してその他はダリヤを見たりマドカの方で温泉に入って頂いたりしながら一日ダリヤ園で過ごして頂く、弁当は米沢牛の牛丼が出るんです。それも美味しい美味しいと評判になっていますけど正直、私なんかまともに食ったの去年だけでしたね、ほとんど食べた事ありません。これ表彰式のきおつけしてる、あの子も多分小学校に、ここらは3歳・4歳児なんですけども小学校へ行ってもまえないやきおつけいぎきちんと出来る子供だと思います、表彰台に上がれるというのは今の内から覚えておくと一生懸命自分も頑張ればこういう所で一等賞に成れるんだとお父さんは後ろから教えているんじゃないかと思います。ここエキスパート一番上のクラス、先ほど話してた竹谷さんも走っていましたJシリーズのスガマくんが一等賞ですねこの辺に遊佐のサワグチくんですね、一緒に今日来たヤマキくんとかチーム奥州の方々です。写真の方はこんな感じなんですけども、先ほど、ちらちらと見えたと思うんですけど上位入賞者、一等賞の方には川西町特産のクリスタルダリヤという事で中にダリヤの花が入っていて、三角なんですけどこれが入賞者にはこれが付くと台も付いていますよ、昨年うちの母ちゃんが頑張ってお出ましてレディーズで優勝したんですよ。スタッフだから出れないんですと行っていたんですけど回りの仲間が変わりにやって上げるから出たらと言われてうちのお母ちゃん本気になって春から練習して、練習すると取れるんですその位のレベルの大会なんですから是非、ファーストタイマーのクラスがございまして是非参加して頂きたいと思います。昨年は中止になったんで一昨年出た時は100kmですが、象潟の漁港から出て海岸端走って、ずーと結構辛かったんですけども登って行ってから海見るとやはり人生登らなきゃいい所見れないんだんという気がしました、凄い綺麗な日本海が見れていいなと思いました。そしたら、そんなんで感動したらダメだよとぐっと回った160kmの時の法体の滝、日本の滝百選で選ばれた法体の滝、そっちの鳥海山ぐるーと見るともっと凄んだからとそれ私まだ経験してなくて是非それにしたいなと思っております。春から練習して冬場は除雪で足腰を鍛えて、春になったらダリヤカップのコースを整備してダリヤカップをこなせば、それから1ヵ月後は鳥海の山登り自転車のサイクリングに行けるんだと春から練習をしながら雪が解ければ整備を進めながらトレーニングに励みたいなと思っております。DVDの方、準備してますんでそちらの方では子供のクラスを中心にこの度ダビングしてきました、一番最初にセーラー服を着た、お姉ちゃんが走っているんですけどもあのお姉ちゃんの後を付いて行けよと言ってそうするとお父さんお母さんがそろそろと行くわけですよ、でも中にはマイペースで何で僕走らなきゃならないんだ、だいたい後ろの方にいますよねだいたいこういう子、毎年いますよねむりむり親に出された見たいな子がいる訳ですよ、またそれがダリヤカップのひとつの三輪車のクラスがあるというのはなかなか他ではないんで、1周だいたい200mあるか無いかというレンガの部分の回るわけでセーラー服のお姉ちゃんが出て来て子供喜んでより大人の方が喜んでいましたね横で見ている、短いスカートの中にジャージ履いているんですけど、父さんが出てくるとちょうどダリヤ園の脇なんでダリヤ園に来たお客さんがこっちでわーわーわ曲いろいろ賑やかに掛けているんで何事かなと見に来ていますね。なかなか、大会ですとうちの近くでも他の大会ですとスキー場とかそういう所でやっていますんで一般の方は見に行けないんですけど、行けないというか知らないからなんでしょ、ここだと一般の方も来ているんでMTBってこんなのかと言ってまして、結構親子で追い掛けながら応援しながら、ここは補助輪のクラスのスーパーキッズ、ダリヤカップの場合13クラスに分かれているんです。補助輪の組、その次に補助輪取れる組が出るんですけど補助輪は取れたけどまだ砂利道を乗ったことが無いという子供さんが多いです。正直、砂利道なんてあんまり無いね川原とか土手の上にもで行かないと今、土手の上でもサイクリングロードに成っていますよね私たちそういう所凄くロードの練習とか凄く乗りやすくて良いんですけど、終わるとダリヤカップの場合ゴールすると冷たいスポーツドリンクが頂けます。どうしてもどか沸くんでここでもらった水が美味しいと中にはビールがいいと言う方もいらっしゃいますけど走って直ぐビールはダメなんじゃないかなと言っているんです。お父さんも一緒に走って子供がゴールするシーンを見てると微笑ましいですよ、私も長男が生まれた時にですね、やっと大きくなって自転車が始めて乗れた時やはり自転車が一番先に子供が乗れる乗り物ですよ移動出来るというか。このクラスが一番危ないクラスなんです、やっと補助輪が取れてたばかりでスピードが出せるというコーナーリングがこう突っ込んで来る訳ですよ、あの黄色いヘルメットの女の子なんか半乗りの様な形でねとかく子供達はあんな事して走る

事自体やった事無い訳ですよ、それに親は必死に応援するし前に行く子供も一緒に行く、ブレーキは前も後ろもお構い無しに掛けちゃうんで砂利道でコーナーでは大抵の子供前ブレーキ掛けて転びますね、ここのクラスは補助輪無しなんでこあっという間に終わっちゃうんで4週程、結構必死に子供達はでもなかなか楽しそうで会場も東屋があってレンガのコースあるんですけど両脇自転車がつんでもなくいっぱいあったりタープの紐とかあって凄く狭いんですけど子供達はその間を抜け抜け走って来ます、どうもこの黄色いヘルメットの女の子がブレーキを全然掛けていないような、こっちに居る皆が慌てているわけですよ、あそこに側溝があるんでコンパネを敷いて入って来ないようにと毎年あそこ側溝に落ちるんですよ誰かがちょうど、あの辺の後ろなんかも林の中も全部コースになっていましてあの辺全部草刈ったんですよ、私たち板降ろしたり草を刈ったりですね。このジャ - ジのお父さんも今野さんかなこの人、鳥海に出ていますね、昨年も出ているはずですね自転車の自転車竹谷さんとこのスペシャライズですね。これがその上の今度はアスファルトを今のコースを少し走るんですけども今度は砂利道、土手の上の砂利道に行くのこの辺はJシリーズ並みですから子供達は必死ですからベダリングは凄いいつかせかく有る変速機を使えばいいのにと思うんですが使わないんです、子供達必死に回すんですよ回すわりにはスピードが出ない、ところでじゃ登りに行ったから軽くすればいいんだけどそれもしない、こげなくて降りて引っ張って行くという様な先ほど引っ張って行く写真ありましたが、うちのスタッフが先に先導して行ってコースこう回るんだよと言って行く訳です。やっぱり砂利道慣れている子供は違いますね上り下り乗った子供達は変速も上手に出来るしこのクラスに成ってくると慣れてダリヤカップの常連さんもいるんで、3回くらい出ている子もいますから結構上手に乗れていますね一番後ろをスタッフが付いて行かないとなかなか大変と、あいう土手の上をもともと道あったんですよそこをずーと枝落として通ると、この辺が降りて来るとダリヤ園向こうの奥がダリヤ園なんです、ダリヤ園の途中から抜けてくるんですダリヤ園の中は通らないで。新しい品種がここに増えて来まして凄く綺麗なダリヤが並んでいます。実際、音出ていませんけど凄いですよ大人のお父さんお母さん達の声援そらいけーそらいけーと押すんで一生懸命子供達こいでいますよね、向こうにダリヤ園の奥でダリヤを見に来た方がちょこっと写っていますけど一生懸命ですよ子供達は、うちの姪っ子なんかも出ているんですけどね、うちの宴会部長出てましたね。今年からはJシリーズエキスパートに上がった、これがこのシーンですけどここが今年のスタートシーンなんですけど150人ここ狭い所ですね、いっきに走るんですよなかなかスタート位置が広い場所が無くて見て頂くと凄いですね肘あてて、ここ女性も一緒なんで女性が後ろの方なんで気の毒なんですよ、正直な話しここから最初ジブロードずーと登っていくからここで順番越す方もいるんですけど林の中に入ると本当にシングルトラックなんですよジェットコースター見たいな形で登って登って登りきると下り。まあこの辺、速めて頂くとこんな感じで前半こんな感じでずーと行くんですよ速い方はバンバン抜いて行って、中に入るとすり鉢見たな状態の所、アップダウンをジェットコースター見たいに繰り返して出た方はお分かりになると思うんですけど、その狭い所を飛ばすんで私たちでも 50km以上下りでは出るので脇なんか全然見えませんよ、普通のちょっとした所で30km位はシングルトラックで出てるんで本当に怖いです。ここ最後の登りなんですよこの辺からだんだん正直後ろの方とかごちゃごちゃ後ろの方をひっぱていて。またスタートの時、ドーンというみんな自分のペース忘れるんですよワーと行っちゃうんで自分のペース崩しちゃうんであの辺でバッテリー切れて来ちゃうんです最初の登りで、そして湖に出て来てもう皆へろへろ、さっきのジャンプ台出て来ていますけどこれも造成して作ってあの辺グルグルと距離かせいで居る感じに成ってしまっていますけど、なるべく本部の周辺で走った方が応援も出来るし観客の方に見て頂けるだろうという事なるべく本部の近辺を走って行くという形。今ジャンプしたのストウさんですね、結構このジャンプ台は毎年好評でジャンプ屋さんは結構居ますね。ただ、ダリヤカップで7回やっているうち雨がまともに降った日が一度も無いんです、朝の内ちょっと降ったんですけどね。この方も鳥海に出ている方でダリヤカップに出て鳥海に出ている方結構多いですね。この辺、沢口さんとか出ていらしゃいますけどここ一番上のクラスの方で今年はこのクラスには奥のインが一番奥からまたシングルトラックで橋を掛けて山の中コース追加しまして1周7.5kmのコースでしたそこを3週という形の上のクラスに成っていました。ここが一番最後の下り先ほど写真で三笠さんが出ていたそのシーンです、ここ三本松スキー場で子供達小学生が良くスキーしている所なんですけどそのゲレンデの下りです。これ沢口さんですかね遊佐の方です、結構皆さんここをスピードを出しています。この自転車が竹谷選手が乗ってたグレー色の自転車でした。だいたいひと回り回ったと思いますけど、こんな感じがダリヤカップのイメージでしたけどもあ

分かりになったかなと思いますけども、この素晴らしい鳥海山素晴らしい山だとなうちの方でも山脈で山あるんですけどもこういう山が余りうちの方に無いんで、是非ここで秋田県側だけでなく山形県側にも来て頂きたいと私は切に願っている所です。何かと色々大変な事はあると思いますけども、自転車を盛り上げる為にも象潟を盛り上げる為にも是非その企画は進めて行って頂きたいと思っております。長々と話をしましたけども是非、今年は鳥海山を1周したいと切に願いながら私の下手な事例発表を終わらせて頂きます。どうもありがとうございました。

富樫

こんにち。環鳥海ってことですが私は地元に住みながら鳥海山へは途中まで登ったことは何回かあるんですけど、頂上へは一度も残念ながら情けないことに登った事はありませんで又いつか是非、登って見たいと思うんですけども、私はこの町で生まれて地元の小中学校卒業しまして高校は山形県酒田の商業高校に越境入学という事で行かせてもらいまして、母親が酒田出身なんですね、なぜか今日も環鳥海という事で山形県秋田県連携という事なんですけども私は山形県と秋田県の母だという事に両方に精通はしていませんけども通じる事があるという事で、鳥海山のMTBの大会なんですけども、最初にMTBという事を私は知らなかったんですけども象潟ではトライアスロンを17回終わってましてバイクというトライアスロンの時も先ほどの本間さんから話しありましたけどもほとんどがモトバイクだと思っているんです。なかなか理解してもらえなくてMTBといっても何の事やらという人たちが多くてですね。最初に私、声かけて回ったのは現在の観光協会の会長からです、会長がお店をやっているで私がバケツかなんかを買いに行ったんですね、そしたらちょうどお話ししていた人がいて今度鳥海山を自転車で一周回る大会をやるからそこにおまえスタッフで行って見ないかと言われてまして何の事やら思いながらいいでしょうと行った所、今年はイベントをやるからとそこで少し手伝ってくれという事で何にも分からないまま手伝いました。それが平成の12年、西暦では2000年ですか、初めての鳥海山一周という事でイベントという事で募集したところ30名程度、実際には28人ですが集まりまして、その時ですね150kmだったんですけどもその時作りましたスタッフのジャンパーというのがこれで、後ろを見て頂ければ本当は150と書いてあるんですけども次の年に160に延ばしましたので50という所をマジックでつなげました。なにせ私たちボランティアでやっていてお金も無いもんですからジャンパー作れないという事で、今まで持っていた連中はそのまま我慢しろといわれましてその時一緒に次の年作った帽子、選手には参加賞スタッフには柄の違った帽子これが私たち鳥海MTBの制服であります。中にはTシャツというのがあり、今日は寒くてなかなか脱げなかったんですけども。なんでMTBの大会を始めたか、私が聞いた話なんですけども象潟にはトライアスロン、先ほど長町さんからもお話ありましたけども17回行われております。7月の第3日曜日に長年行われていたわけですが、その頃は海の日で現在制定してありますけども7月20日ですか、その頃はなかったんですね第3日曜日、何故その日に成ったかといいますと地元の方は知っていますけども第2日曜日には象潟町民運動会が大昔からありましてその日しかない日本海は春から泳げないですから夏場しか泳げないですからスイム・バイク・ランとありますから7月の気候のいい時がいいだろうという事で第3日曜日にしたいと思います。MTBを日曜日1日でやるとすれば全国から集めるのは大変だと、いつならいいか夏にはイベントがあるんで秋ならどうだという事でその頃、体育の日というのは第2日曜日という事で決まっておりましたので3連休、当時はハッピーマンデー法案ですね1月の成人の日と2箇所、10月の体育の日の前日という事で日曜日、前の日の土曜日からやると3連休それを目指してなるべくお客さんたち選手ともども家族連れで来てもらって2泊していただくという事でその日に決めたわけです。少し余談になるんですけども昨日、日付を前もって前へ前へと見て行っただけなんですけども関係ない話かもしれないんですけども、トライアスロンの7月20日というのは昨年は19日が海の日でした。その前の年は20日は確か月曜日に当たったんですね20日に制定されていましたがその前の年にですね、さきおとしには連休ではなかった時があったんです。いつから制定されたのか分らなかったんですけども体育の日は完全にハッピーマンデー法案の最初の時に作った。そこでこの町をもう一度トライアスロンの次に盛り上げて、そして皆さんに喜んでもらえる大会にし、そして地元の活性化を計ろうという目的で始めたそうです。これから順を追って話をさせていただきますけども、昨年は残念ながら出来なかったんですけども平成12年、鳥海山ぐるっと一周MTBサイクリングのプレイ大会さっき紹介しましたがけれどもこのジャンパーを着て150km、30名ほどの参加でした。象潟の公民館前から出発して朝6時スタートしました。そして帰ってきたのが早い人で2時半、



最後の人で6時ぐらい 12 時間です結構な時間です。その中で結構、目立った人がいまして今日来ていますけど酒田のミカサさんという人が朝4時半頃受付していたんですけど暑い暑いと 10 月なんですからそんなに暑いわけ無いんですけど暑い暑いと受付に来たんで、なんで暑いんですかと聞いたら酒田から自転車で来たら暑い、酒田からここまで自転車出来たんですか。そうなんですよって、今日は山形県側で結婚式ありますから私帰りますよ、とんでもない人が来たもんだなと 150km どころではなく 200km 以上走ったんじゃないかと思ったんです。帰ってきた選手たちの姿を見て、結構泥だらけに

なって帰ってくるんです、私は凄いもんだなと実際、私は本部に居ましたので見ていませんでしたので、コースは知っていましたけれども凄いもんだなと泥だらけになった選手の姿、そして後ろから帰ってきた選手に握手をして良かったなと両手を取って自転車を洗って思い出を話しながらとても感動しました。自分にはとても無理だなとそこで思ったんですけども、次の年ですな平成 13 年 10 月 14 日ですけども第 1 回の鳥海山ぐるっと MTB サイクリング、これ 160km というとプレイ大会 10km 延ばして別のコースとして山形県側はほとんどコース変わらなかったんですけども矢島に抜けるコースを変えてやりました。その時に竹谷さんが出場していました。竹谷さんはその前の年にプレイ大会のとき 11 月に雑誌社の人と一度来ているんです、11 月の 23 日頃だと思ったんですけども、少し見たいから行っていいかという話があった時にもう雪降っているでしょと、所がたまたまその日が凄く天気が良かったんです。雑誌社の人たちといい写真を撮られていったんですけど第 1 回大会の時に初めて選手として来てもらったんですけど竹谷選手が出られる時、朝 5 時から象潟町の役場前、さっき公民館前といいましたけど今は役場前といいましたけども向かいどうして一緒です。5 時スタートなんですけども竹谷さんを一緒に出したんでは先に行ってしまうに決まっていますから 160km と 80km というのがありましてね、80km の人たちが 1 時間遅れで出す事にしたんです。80km の人たちと一緒にスタートしてもらおうと、そして 160km の人たちを全員追い越してもらおうとそうすれば全員、竹谷さんに会えるわけです。こんな素晴らしいことない訳ですよ、その頃は日本チャンピオンでしたから皆さん知らない人が居ないくらい有名な人でしたから、思い通り全員追い越して私その時本部にいたんですけど昼までには帰ってこないだろうとゆっくりしていたんですよ 80km の選手が 6 時に出て 2 時間で帰って来た。あまりにも早くて物足りなかったといわれてこんな事ならもう、早く帰ってくるのかなと思ったら連絡が入りましてもうそろそろ着くからさっきは夕日見ながら帰って来た様な話してましたから全然あれ嘘ですねお昼前に帰ってきました。6 時間弱だったと思います、5 時間ぐらいだったと思います選手が帰ってきたら身体は温かいんですけど周りが冷たくなるんです、最後に大きい鍋に鮭汁を作って待っているんですけどもゴールした選手に食べてもらおうと、ところが余りにも早いために間に合わない、鮭汁を作ってくれているおばちゃんといいますが、今日ここにきておられますけどあんなちょっとずるして来たんじゃないのか余りにも早いからもう一回行って来いそんな話をしながらもう一周して来ますかと冗談をいた記憶があります。その時は次の選手が入ってきた、2 時間遅れだったと記憶しております。全員が完走するとは最初から思っておりませんでした、50% ぐらいの完走ではないかとスタッフが予想した所なんと 85% 完走しています。最後は 6 時半頃になったんですけども、本当は 6 時までの 5 時からですから 13 時間ですか、かなり長い時間なんですけれども 13 時間のところをよく女性から全部完走、途中でタイヤした人もいますけどもほぼ 85%、ビックリするくらいスタッフに聞くと自転車って何でこんなに速いんだと車で私たちコースを視察に回ってほしい朝 8 時に出て行くと 3 時頃にならないと戻って来れない途中でご飯を食べたり視察しながら見ていくとそのぐらい時間がかかるのに車の倍はかかるだろうと思って全然早いです。下りは車を追い越していくぐらいのスピードがありますから、160km というのは現在の鳥海山麓 MTB サイクリングというのと最初にやった大会なんですけれども、平成 14 年一度募集しました第 2 回、募集はしましたが道路の決壊がありまして上に登っていきなくなったんです交通安全という面も考えてそれは出来ないだろうとこれは 1 回だけやって終わらせてしまうのは忍びないという事で何とか短い距離でもいいから出来ないかという事で急ぎょ一度募集したのに振り込んでもらったお金を全員に返してもう一度募集し直してその時は日にちが間に合わなくて 11 月 3 日に山麓と

いう事でこの辺、象潟町・金浦町だけでも 60km のコースを作りました。この時は 60 名程度しか集まらなかったんですけどもみぞれ交じりの中をですね、8 時にスタートをしまして早い人で 11 時、3 時頃で終わっております。この大会から私、インターネットの申込みというのが私よく分からなかったんですけど、この年に私パソコンを家に入れてまして申し込みはどういう風にするんだと思っていましたら半分に申し込んでみたんです、観光協会の方から何をおまえ馬鹿な事をやっているんだと、おまえ選手で出ている場合じゃないだろうと、でも申し込んだんだからやってみようかと思い急きょ知り合いから MTB を譲り受けて 10 日くらい練習いたしました。60km、途中でへばってもスタッフが助けてくれるだろうと安易な気持ちで出ました。一度出たら楽しんですねこれが、辛いんですけども楽しんです、そして先ほど竹谷さんからもありましたけ最後にどうどん食べる場所があるんですけどそのうどんが美味しかったこと手前味噌で申し訳ありませんが、大変美味しくてこれならもう一回出て走ってみたいとそれから私、スタッフを辞めた訳じゃないんですけどもスタッフ兼選手としてはまっしてしましまして、選手になった時から家の妻と次女にボランティアに参加してもらってゴールで完走賞で鮭を渡してもらったり手伝ってもらっています。平成 15 年の第 2 回の大会、この時に 100km と 40km を走って 100km コースと前の年にあった 60km のコースの二つを設定してあります。その時の前夜祭の時、前夜祭でも暗くないですけど朝早いんで 3 時頃からの前夜祭だったんで、この時間は 3 時半ぐらいですか、これは全部の選手ではありませんけど、これは観光協会の前なんですけど確かどっかに竹谷さんいるはずですよこれの中に一番前ですか。この 2 回大会からここに写真がありますので紹介して行こうと思います。これは象潟の漁港ヨコマという所をスタートしております、6 時スタートで、これは前夜祭の鮭を焼いたんですねチャンチャン焼きではないと思います、チャンチャン焼きとは野菜とか入れ焼くんですが、これはただ焼いた鉄板焼きだと思うんですけどもこういう風にして前夜祭で多少スタッフが作って選手に食べてもらっています。これは当日のスタートですけれどもかなりスタート地点が狭い場所なんでこの大会からですか 10 分おきのスタートで今、B とか見えますけども ABC とずっとありまして確か竹谷さんは Z でしたか一番後の番号を付けてもらった。次をお願いいたします。今のすぐ近くなんですけれども海のすぐ近くの防波堤のすぐ脇に作業道があるんですけどここを走っています。これは竹谷さんですね、後ろはこれは見にくいんですが海なんです。この時は竹谷さんから一番最後、60km の選手の後に出てもらってですね、全員追い越してもらおうという事で後に出てもらいました。これもですね、少し前後してしまいました、今の竹谷さんの写真よりも前のコースですね。この左にあります、選手からは右ですけども向かって左に見えます松ですけども去年の何回かの台風でこれが倒れて、今一切ありません、今この松の木が全然なくなっただけですよそしたら少し怖いコースになってしまったんですけども、何回か乗っている人たちがあれば、これは復路になってまして帰りは逆に通ってもらってゴールに帰るという事になります。これは多分だと思うんですけど地元では捨ての山といわれているんですけども一番激坂このコースでは難所なんです。ここが仁賀保高原だと思うんですけども先ほど本間さんも、本間さんもこの大会から出てもらっていますんで素晴らしい景色だという所がこれの少し後ろになりますか、登って行く時よりも帰りの方が景色がいいです。ここは仁賀保高原の中のサイクリングロードになっておりましてサイクリングロードを通りこの後におにぎりや牛乳を食べるエードステーションがあります。これが今いったエードステーションでスタッフで地元の物を出そうという事でここに牧場があるんですけど土田牧場の牛乳とおにぎりを用意して待っています。この後にこれが仁賀保町のスキー場、こんな所を通れるのかと思って道が無くて色々探した結果、ここを仁賀保町にお願いして草刈をしてもらってスキー場を下ったシーンであります。この辺りはちょっとした集落の中を道ではないんですけども送電線、東北電力の送電線があるんですけども送電線の中を走ってそれからまたもとに戻る途中なんですけども、泥だらけの所を走って来るんですねその後には水溜りが 2 箇所くらいある、そして自転車道が綺麗になるんですねよく考えられたコースだと私、自分でも通っても感心したコースでした。これは最後の方になるんですけども、ここは 60km も 100km も通る場所なんですけどもバショウ公園の中のトイレのある場所なんですけどもここで先ほどいいましたうんですね、これは第 1 回ぐるっと回った時から続けておりますこのうどんに間しては食べていただいて最後の力を振り絞って頂こうという事でやっております。これはゴールですけども、持っているのが完走して来たという記念と完走した鮭、鮭は回遊魚ですのでぐるっと回って来ましてよこれを掛けております。これで後終わりだと思うんですけど、くつろいだシーンでこの時は確か天気は良かったですね鳥海山の頂上まで見えますんで、今まで天気悪かった時はほとんど無かった 11 月にやった時には頂上は見えませんでしたけどもぐるっと回った時、この時素晴ら

しい天気でした。これが第2回MTBサイクリングの平成15年に行われた、この時は私も出ましたけども竹谷さんに途中、何キロ地点かな40kmも行かない地点で追い越されまして、復路があるんですけども復路の所で上り下りが一緒だと大変危険ですから少し止めておいてくれ、どうせ早く帰ってくるんだろうから休ませておいてくれスタッフが間に合わなくて行ったら来てしまい、竹谷選手少しそこで休んで行きませんかといって、しょうがないな行かせるか、気を付けて行って下さいと、怪我無く他の選手にも影響なく来たんですけど竹谷さんこの時4時間切ってますね、ちなみに私は8時間半ぐらいだったと思います。この大会、今まで去年の大会なんですけど先から何回か話しありました台風22号のせいでやむなく断念したわけなんですけどもエントリーしてくれた人たちには大変ご迷惑かけましたけれども私も凄く残念で残念会のお酒を頂いた後、家へ帰りましてこの年になって泣きました。こんな悔しいことは最近無かったです、今年こそは是非なんとしても開催したいと心に決めております。この平成12年から第3回の大会まで5回、去年は幻の大会でしたけども5回大会をやりましたけども一つとして同じコースを通った事はありません。第1回目の時からキロ数が変わって60kmになっています、その次が160kmになっています、その次が山麓になって60km、次がまた40kmたして100km、去年は行われなかったんですけどもさっき景色のいい場所といいましたがそこも道路の決壊、6月頃の雨ですか道路が崩れまして地滑りが起きているという事で何回も見に行ったんですけどどうも迂回路が無く上には行けないという事で何とか他の所で代替の場所を見つけようという事でいろいろスタッフが探してまいりました。何とか40kmを見つけて向かったんですけども第1回の100kmの時よりも凄くハードなコースになってまして私自身が完走は無理なんじゃないかと思っておりました。その時に作った、前の年はもう少しオレンジの濃い物でしたけどもその時作ったTシャツがこれです。これから毎年たぶん作って行くと思うんですけどだいたいデザインは変えないつもりであります。スタッフにも選手にも配っているんですけども、今もいいましたが5回やって今まで一つとして同じコースが無いという事でいろんなコースも組めるという結果にもなります。毎年、今年は本当に大丈夫なんだろう、大丈夫なんだろうか心配しながら迎えているわけなんですけれども、ただ思わぬ事にこれがあっちこっちのコースが出来るということに現在は1周では無いんですけども昨年のコースと一昨年のコースをつなぎ合わせると140kmのコースが出来ます。少しスタッフが足りなくて無理なんじゃないかと思えますけどそれよりは1周したいというのは確かにあるんですけど、これで先ず今までの大会の活動報告みたいな感じなんですけども、さっきから何回もいろんな人たちが1周について話してますけども我々が最終的な目的は1周したいという事で1回だけやっていますけどもこの時には山形県の方、私さっき酒田の高校出身だ向こうに同級生もおるんです八幡町の役場にも同級生がおりましてその時に頼みに行った時があります。遊佐町にも同級生がおりまして、向こうから手伝ってもらっています、そういう人たちとも最近、疎遠になってしまっているんですけども、また是非復活してですね、参加者もいつ1周出来るんだという話も聞えてきます。1回だけは行われたわけなんですけども1周するという事はたぶん日本で最長のMTBの大会になろうと思います。そしてですね、竹谷さんの話にもありましたけどもなかなか富士山一周すると言ってもそうとうな距離があります。0m地帯の海の地点から2000mを超える山を1周して、鳥海山とは見る角度によっては色々変化します、夕日に向かって帰って来れるコースは日本いろいろあってもここしか出来ないんじゃないかと私は思っております。それが1周出来る事によってこの鳥海山が全国に名前が知れ全国から選手の皆さんやそれを応援する家族の皆さんやらそういう人達を招いて、スタッフもですね秋田県・山形県両県のスタッフを集めてやりたいとそのためにはですね色々諸問題はありますが各関係団体、今日は秋田県の地域振興からそれから庄内市長、皆さん来ていますけども是非、私たちが色々計画して行きますのでその節には何とかアドバイスやらそれから情報やら教えてもらってどうゆう風にすれば実現まで持って行けるかという事を私たちに教えてもらいたいと思います。山形県にお願いに行くわけなんですけども、先ずは町役場にお願ひし、それから民間ボランティア紹介して頂きながら、今現在は模索状態です今年から走りたいなとさっき話しありましたけども今年は少し無理なんではないかと長い目で見て行って、いずれ160kmじゃなくてもですね鳥海山の周りを1周して大会、サイクリングですね、13時間、14時間かかっても早ければ朝4時からスタートしてもいいわけですし日暮れまでに、ライトを装備しながら長い距離そしてこの象潟町それから周辺の町、そこに宿泊して頂きながらこの鳥海の素晴らしさを満喫して頂きたいと節に思っているわけです。もう少し話を前後して思い出話をさっき話し忘れましたので、100kmの仁賀保高原まで行った大会ですけどさっき写真にあった大会ですけど、あの大会が私たちの最後の大会みたいなもので私個人的な話なんです

すけども、前夜祭でスタッフが盛り上がりまして私深酒しまして1時ごろまで飲んでしまいました。次の日4時に起きて準備するんですけどスタート時間の時二日酔いでした。山登りしていたら気持ち悪くなってきて帰ろうかと思ったんですけどもなんだかんだ言っても竹谷さんに追い越され、それから竹谷さんにもう一回出会い上に行ったら本間さんと並走しながら何とか上まで行きました。さっきのうどん食べている所ですね、あそこに行ったらうちのスタッフがダンボールを用意してくれていたんですよ。そこにちょっと横になって、あんたのために敷いて置いたよと言われたので、横になっていつの間にか寝てしましましてそこで20分か30分、今日そこに司会に来ていますシンコさんからこんな所で寝ていていいのといわれて慌てて起きて帰りました。最後ゴールした瞬間ですねやはり素晴らしい感動というか、私は完走賞というのをもらったんです照れくさかったですけども、少し向こうを向いてホロリと涙がこぼれまして大変感動したことを覚えております。何回もいうんですけども1周したいと、どうすればいいか教えてもらいたいとかですね、今日は国土交通省からも見えているという事で私たちの勝手なお願いではあるんですがこの鳥海山のMTBを全国のモデルケースとして指定して頂けないかと思っております。もしして頂ければノウハウを教えてもらいながら邁進して行きたいと思っております是非、商工会の皆さん庄内市長からもお力添えの上よろしくお願ひしたいと思います。最後にですね、第1回鳥海山ぐるっとMTBサイクリングの中のプログラムから引用しました事をひとつ紹介して終わりたいと思います。日本海からすぐ聳え立つ東北最高の独立峰鳥海山だからこそ出来る日本最長最高のMTBツーリング大自然が織り成す夢と冒険、感動の一日21世紀を向かえ新たな1ページ、1周160km秋田県と山形県の両県にまたがり象潟・金浦・仁賀保・由利・矢島・鳥海・やわた・遊佐の8町を通過、その場所で全く違った姿を見せてくれる鳥海山これを題材にして21世紀に向けて全国的に誇れるイベントにしたい、おらが山である鳥海山をもっと全国にアピールし由利・アクミと言った環鳥海地域の活性化そして各地域の交流を通じて選手だけではなくその家族、そしてボランティアとの人と人との心のふあいが出来れば幸せだと思っております。是非皆さん何らかの形で係っている皆さんが多いんでお力添えの上、1周という実現に向けてひとつ力を貸して頂ければ幸いですと思っておりますのでスタッフ一同よろしくお願ひいたします。

(質疑応答)

竹谷

若い子に対してどうすべきかで示してあげるこの二つを組み合わせれば行けばオリンピックという場所で金メダルを取れる要素を揃えられるんですよ。僕だけでは無理なんですよ。そういったあらゆることを今後、組み合わせれば要素としては成り立つと思っているんですよ。そういうスパンでそういうスパンや幅で取り組んでゆかなければ当然そういう結果にはたどり着かない改めて認識されたというのがオリンピックでしたね。

有難うございました。

ニトベ

スタッフとライダーを兼ねておりますニトベです。

160kmと100kmを竹谷さんが走ってくれたんですけども、ぐるっと一周160km走り終わった竹谷さんに質問したんですよ。その時、竹谷さんは160km完走した後にもう一回160kmを走りたいといいました。今度、100kmの時にやっぱり走り終わった後に竹谷さんどうでしたかと感想を求めましたら、今度は次に何がどうゆうコースが来るか大変楽しみに走りましたとそういう感想を聞いたんですけども、両方一緒にやれないんですけども走りその物の楽しみというのは竹谷さんの場合、どちらの方が楽しかったですか。

竹谷

自転車をおる程度、移動手段といいますかね人間が物理的にAからBに移動するための手段として考えるならばある程度行った道を帰ってくるよりはむしろ大きく地図で見たときに一筆書きで書ける様なそう言ったふうに移動した方が達成感というか充実感はあるんですよ。移動としての達成感はそうだし、MTBを遊びの道具として見た場合は例えば段差を乗り越えて見たとか登れなさそうな上り坂を上ったり下ったりその様な技術的な要素もありますのでそういう場合は路面が変わったりとか障害物が待ち構えていたりとかそういうのをどんどん技でクリアしていく、そういう遊びがありますのでそれもまた楽しんですよ。いろんな要素

があるんで 160km のぐるっと回る充実感も楽しいですし、100km の時やった巧みにいろんな所が組み合わされているという意味でそれを一個一個自分の技で乗り越えていくのも楽しいかなあという感じです。どっちがいいじゃなくて、どちらも楽しいという感じですので魅力はそれぞれあると思います。ただ、ここでしか出来ないというのは技の遊びというのはいろんな所で出来るんですけども大きく地図を見た時にこの山をこんなに回って来たのかという様な達成感というのは他ではあり得ないんで、もし出来るならばそう言った達成感を得られるこういうロケーションを生かして走りたいなと思います。